



現場からこんにちは！！



今月の現場：小牧市 K 様邸

2006年5月



自然石張りアプローチ：岐阜県蛭川村で産出する通称「木曽石」。その木曽石を選びを選んで表面が平らな物だけを使用した、最高難度のアプローチです。

一つ一つ隙間（目地）が出来ないようにノミで割りながらすり合わせていきます。

70年近く石を見てきた職人技術の結晶です。

和の庭に「つくばい」は欠かせません。

もともとは、茶道の習わしによりお客様が這いつくばるように身を低くして手をきよめたことが始まりです。しかし、現在では、演出として用いられることも多くなりました。

塵ひとつ落ちていないような美しい庭園にある一抹の物寂しさ、侘び寂びの世界。 まぎれもない日本の風景ですね。



白い砂の中に浮かぶ杉苔と飛び石のコントラストが日本庭園の美しさを際立たせます。

苔山のふくらみは緑が茂る山を、白砂は海（川）を表現し、小さな庭に自然の風景を模写しています。

日本庭園には一つ一つ全てに意味があるのです。

この竹穂垣（大徳寺垣）なんと竹ほうきで出来ているのです。通常は竹の穂を立てて作るのですが、最近は竹穂も決して安いものではなくなりました、そこでいかに手軽にコストを抑えて作ろうか？と考えた結果、竹ほうき（中国製の安いもの）を利用したわけです。

これなら、古くなって竹が傷んでもすぐに取り替えることができます！中々良いアイデアでしょ？



今月もまだまだ紹介したい現場があるのですが、紙面の都合上お見せできないのが非常に残念です。今後、施主様に了解を戴いてご紹介させて頂けたらと思います。それではまた来月の現場レポートでお会いしましょう。